



れんかくばり



連携交流会を終えて

院長
泰公平

去る8月1日の連携交流会にはご多忙の中、多くの先生方にご出席をいただき、まことにありがとうございました。その時に救急医療の現状と展望という題で少しお話申しあげましたが、もっぱら当院の現状というか苦境というか、展望のない話になってしまい申し訳ありませんでした。先生方の感想にも今後どうしたいのかを話してほしかったというものがあり、我ながらお願いすることばかりでしたので反省しております。

人口20万、三次救急もそう多くない地域では、救命救急センターのあり方はやはり都会とは異なり、独自の体制を工夫し維持していくしかざるを得ません。しかしながら医師も増えない状況で、24時間の診療を続けることは大きな負担であることは間違いないなく、せめて休日診療所を作り、先生方にご協力いただけないだろうかということは、救急指定病院に勤める勤務医すべての願いであろうと思います。

一方で、当院の診療において問題があることも自覚しております、先生方のご要望に十分応えきれていないの

も確かであります。この点は改めて検討改善するよう指示いたしました。地域医療の問題について色々なところで話をしたり書いたりしておりますが、人材や医療資源の点からも地域完結型医療を進めざるを得ません。そのためにも連携をしっかりと行うことが大切であります。来年1月から松江地域においても「まめネット」が始まりますが、こうしたものも利用し、また、訪問看護や介護保険なども考慮に入れつつ、それぞれの立場を理解しながら地域医療を行っていく必要があろうと思います。住民への広報や指導も行っていかねばなりません。

当院としては救命救急は絶対に維持すべきと決意しております。これをやめてしまうことは地域医療に大きな影響を及ぼすだけでなく、当院の存在価値をも疑われることになりましょう。医師の招聘も引き続き努力して参りますが、山陰の地で救急をやってみようという人は簡単に見つかりそうもないのが現状で、当分現在の体制で行くしかなかろうと思っております。

職員一同、強い覚悟でもって高度な専門的医療と同時に救急医療も続けていく所存でありますので、今後ともご支援・ご協力のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

新任医師紹介



7月1日付

嘉山 邦仁

7月より赴任しました嘉山邦仁と申します。以前は鳥取県立中央病院に勤務しておりました。どうぞ宜しくお願いします。



7月1日付

小池 大輔

1年ぶりに松江赤に帰ってきました。
地域の子どもたちの笑顔を守るために頑張ります。



9月1日付

西 健

島根大学 消化器・総合外科より赴任いたしました。大学では肝胆膵外科を中心勉強してきました。まだまだ力不足ではありますが、堅実な医療ができるよう尽力してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

退職者

平成25年8月31日付

眼科 副部長

太根 伸浩

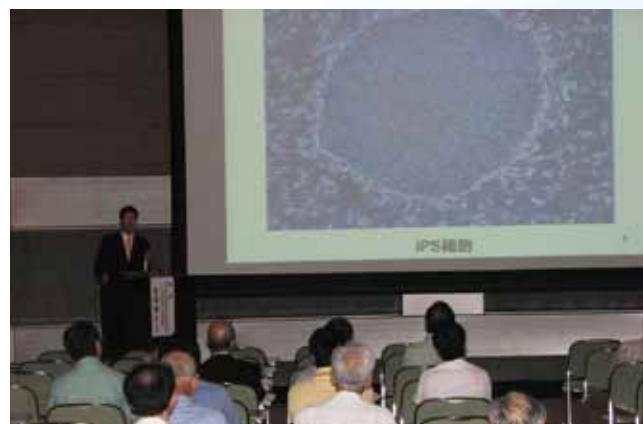
「医学フォーラム inくにびきメッセ」を開催しました

iPS細胞：人工多能性幹（induced Pluripotent Stem）細胞、今や皆さんお馴染みのこの言葉、でも詳しくは、あまり知らない方が多いのではないか…？

去る平成25年7月13日に、神戸大学大学院医学研究科iPS細胞応用医学分野 特命教授の青井貴之（あおい たかし）先生をお招きして、「iPS細胞の臨床応用と未来」と題して、今話題のiPS細胞に関する御講演をしていただきました。

御存知のようにiPS細胞に関する研究で、昨年、京都大学の山中伸弥先生がノーベル生理学・医学賞を受賞なさいました。青井先生は、神戸大学医学部を卒業後、天理よろづ相談所病院、聖路加国際病院、日本赤十字社和歌山医療センターで消化器内科医として臨床に携わった後、京都大学大学院に入學し、かの山中研究室の大学院生として学位を取得され（学位論文もサイエンスに掲載されるという素晴らしいものであったようです）、そのまま山中研究室の研究員としてiPS細胞研究の道に進まれ、iPS細胞研究の黎明期から現在に至るまでの基礎および応用研究、臨床開発など、iPS細胞に関連する多くの現場に深く関与していらっしゃいました。片田舎の松江で、ノーベル賞に直接携わった先生の御講演をいち早く聴かせていただける機会をいただけたことに大きな喜びを感じ、この日を楽しみにしていました。

当日は、連休前の土曜日、猛暑の中にもかかわらず、これから医学の流れに興味を持たれた多くの方々にお集まりいただき、当院の大居先生の座長のもと、iPS細胞の基礎から、これからどのような展開になっていくかを詳しく御講演いただきました。目に見えないたった一つの細胞からいろいろなものを創り出し応用できる……、そんな小説や映画での出来事と思っていたことが、今まさに現実になろうとしている



ことを肌で感じ取ることができました。倫理的な面、安全性、その効果による利益の問題など、いろいろな課題が多く、現実となるには多くのハードルがあるようですが、その時はもうそこまで来ているようです。そのうち、障害を受けた臓器の治療に、難しい薬や手術は不要となるかもしれません。「昔は、体にメスをいれて、“切ったり貼ったり”するような野蛮なことをしていたんですよ…」などという時代が本当に到来しそうな予感です。また、再生医療だけでなく、iPS細胞を利用しての創薬や病態研究も可能なようで、夢の新薬の開発やとりわけ癌治療なども大きく変わっていくかもしれません。

青井先生は、臨床医出身らしく、iPS細胞をいかに臨床応用していくかに重きを置いていらっしゃり、一般臨床医の我々にも聴いていて楽しい内容でした。また、山中研究所の始まりは20名弱の小さなものであったようで、特別なことをしたわけではなく、先人達が残していくものをきちんと理解、整理して次へと発展させていったことを強調されており、ノーベル賞受賞というとてつもないことを為し得ることができた舞台裏にある、日頃のすべての事柄への取り組む姿勢への貴重なメッセージがあったようにも思われました。

今回の講演内容は、直接、医療連携に繋がるものではなかったかもしれませんのが、なかなか地元では聴くことのできない最新のトピックス、当院ではまだ実施できない注目されている治療といった内容を少しでも皆様に知っていただく機会も提供できるようにしていければと思いがあり、その一環として企画させていただいたものでした。今後とも、御指導を賜りますよう、紙面をお借りしてお願い申し上げます。

心臓血管外科 副部長 齋藤雄平

第19回 地域医療勉強会

～看護師さんあつまれ～

地域の看護師の皆様のスキルアップをめざした「第19回地域医療勉強会～看護師さんあつまれ～」の勉強会を6月12日、20日に当院で実施しました。講師は皮膚・排泄ケア認定看護師石飛仁美でした。市内の病院をはじめ、医院や施設、隣岐や大田の病院などから57名の方に参加してもらいました。



今回のテーマは、「ストーマケア基本編」。「人工肛門とは?」「皆様の質問にお答えします…」「装具交換」などと話をすすめていきました。(当日の資料は当院ホームページにも載せておりますのでご覧ください。)

受講者からは「少し自信をもって介入できそう」・「とにかく製品をよく知ることだと‥勉強してみます」・「基礎的なことが改めて学習できてよかったです」・「装具の交換の仕方について再度確認ができるよかったです」などいろいろと感想をいただきました。誰もが知りたがっている“うまく貼れる”、“もれや皮膚トラブル”をおこさないための装具交換の“コツ”を学んでいただけたのではと思っています。「ストーマの数だけ悩みはある」ことを実感し、日頃悩みながらケアされている方たちのお役にたつことができれば…と改めて感じました。



「地域医療勉強会～看護師さんあつまれ～」は、年4回を目標に開催したいと考えています。皆様がたの学びたい内容に沿えるように企画したいと思っています。今後もぜひご参加ください。お待ちしております。

第2回

「がんと漢方」

漢方
处方研修会
松江赤十字病院 地域連携サイエンス

6月14日第2回漢方処方研修会を開催しました。昨年11月30日の第1回に続いて静仁会静内病院井齋偉夫先生をお招きし、「がんと漢方」というテーマで講演していただきました。前回の「急性期病棟で役立つ漢方薬の使い方」で明解なお話を聞かせていただきしており、今回も院内外から多くの皆さんの参加がありました。漢方薬を超多成分薬剤システムと捉えて作用機序をわかりやすく示しながら、悪心・嘔吐、口内炎、食思不振などの抗癌剤の副作用軽減や免疫能の改善に漢方薬が大変有用であることを解説され、今回も現場ですぐにできる漢方処方を教えていただきました。



好評をいただいており、来年も開催を予定しています。

地域医療連携室長 漆谷 義徳

第3回 地域連携勉強会

を開催しました。

「転院後の患者さんはどうしているだろう？」

そんな思いから、6月21日に「第3回地域連携勉強会」を開催しました。鹿島病院の相談員から、療養型病院の役割や当院から退院された後の患者様はどう過ごしておられるかについて話をして頂きました。

看護師、セラピスト、相談員など多職種が40名程集まり、参加者からは「改めて療養型病院の機能を知り、今後も連携への気持ちが高まった」との感想があり、また、鹿島病院からも「今後も1人でも多くの人を良くしたいので更に連携を深めていきたい」という言葉があるなど、有意義な勉強会になったと思います。

今後も地域連携勉強会を通して、地域の方々との連携を深めていきたいと思います。

医療社会事業課 角田 ゆかり



第10回 交流会報告

地域医療連携課長 齊藤 文章

8月1日ホテル一畑で第10回松江赤十字病院地域連携交流会を開催しました。院外からは53名、院内からは60名の参加がありました。第一部では「救急について」をテーマとし、当院秦公平院長から「救命センターの状況と今後の見通しについて」と題し講演頂きました。当院の救命センターの現状と実績や開業医の先生方へのお願いなどについて話されました。続いて松江保健所長竹内俊介先生からは「島根県医療計画(救急についてを中心に)」と題し講演頂きました。救急についての考え方から、松江市立病院、当院との救急患者の動向や比較について。高齢要介護者の退院先の確保が困難であること。住民が救命センターへ気軽に受診していることが医師の疲弊につながっていること、今後の地域包括ケア体制などについて話されました。当院地域連携室長漆谷義徳先生からは紹介、逆紹介を積極的に進め地域完



結型の医療になるよう地域連携を進めていきたいと抱負を話されました。当院では救急救命科部長の退職に伴い救命科の医師が不在となり、一部の時間帯で救命センターへの受診を制限しています。このため、今後の救命センターの有りようが注目されていることから「救急」というテーマで交流会の第一部を設定しました。院外から参加された先生方の感想には「救命センターの将来ビジョンがもっと知りたかった」「日赤の方針が知りたかったが明確でなく残念だった。」「かかりつけ医の役割もお話しにあったとおりだと思う」など厳しいものから、励ましまで多くのご意見を頂きました。第二部の懇親会でも率直な意見のやり取りが見られ、親睦を深めることができました。全体的に、厳しい中にも当院への励ましや期待を感じることができ、これまでにない交流会になったものと思います。

「松江赤十字病院地域医療支援病院運営委員会」を開催しました。

去る6月13日(火)当院会議室において平成25年度第1回松江赤十字病院地域医療支援病院運営委員会を開催しました。

内容は、救急・外来・入院の状況についての報告と

講習会・研修についての報告。また、ヘリ搬送の状況等について報告しました。委員の皆様からは救急の状況について説明を求める声がありました。また、講習・研修会の把握についてのご意見もありました。

研修会等のご案内

健康医学講座

10/17
木

14:00~15:30 本館6階会議室1・2

「救急外来を受診する時はこんな時! ~いざという時のために~」

救急看護認定看護師 中筋真紀

11/8
金

14:00~15:30 本館6階会議室1・2

「心不全と言われたら」

循環器内科医師 杉原志伸

松江赤十字病院 地域医療連携課

〒690-8506 松江市母衣町200番地
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261

